

月次県内経済

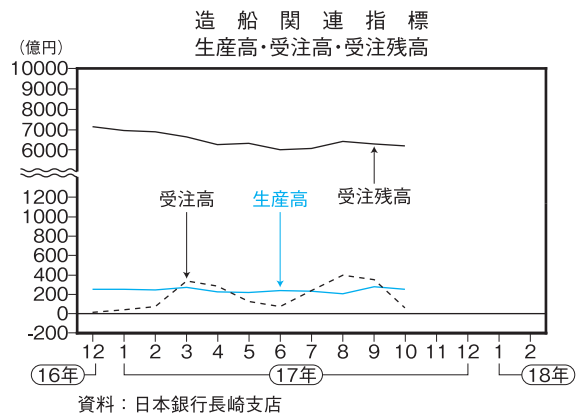
概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

〈3月〉生産面では大手・中堅造船は既往受注により概ね高めの操業を維持、重電機械も堅調、電子部品は持ち直し続く。需要面では、公共工事請負金額が高水準ながら増勢一服、新設住宅着工戸数は堅調。個人消費では大型小売店販売額は弱含み、乗用車（登録車）販売台数は前年を下回る。観光面は、主要施設の宿泊者数が堅調推移。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。4月入り後も生産・投資は底堅く、観光面では持ち直しが続く。

造船 一部では操業やや弱含みも、中小は堅調

大手・中堅造船では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度がやや弱みで推移。

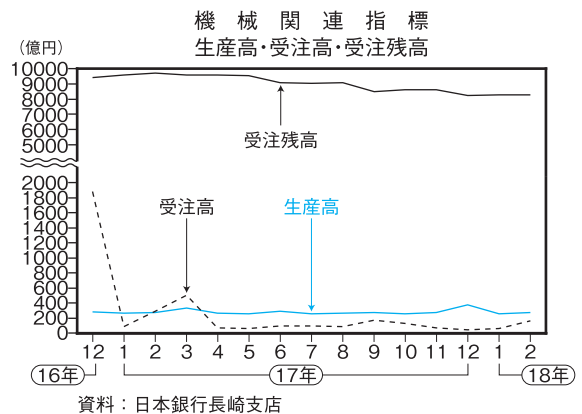
地場中小造船では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



機械 重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増加継続

重電機械では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は国内外ともに受注が弱含みで推移している。電動機は比較的高めの受注残を背景に一定の操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。

電子部品では、海外との競争など厳しい環境ながら、生産増加継続。

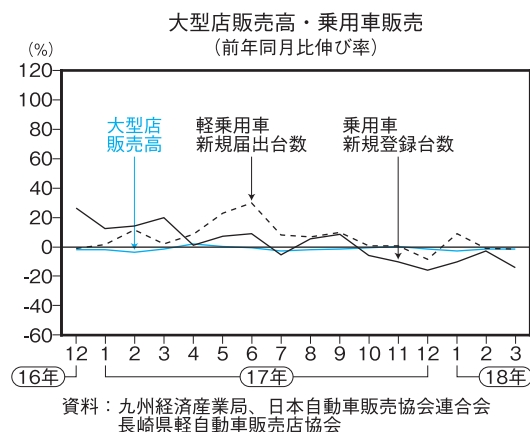


小売商況をみると、3月の県内大型小売店販売額は、小幅ながら前月に続き前年割れ。乗用車販売は登録車、軽乗用車とも前年割れ、サービス消費面の旅行取扱高は増勢続く。なお、4月度の大型小売店等の売上げについては比較的底堅く推移。

3月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は85億円、前年同月比1.7%減（同一店舗比較）となった。品目別では、飲食料品が1.2%増と堅調ながら、衣料品は、主力の婦人服等が3.1%減、紳士服・洋品が0.2%減、身の回り品も4.0%減となるなど全体では3.3%減。このうち、百貨店では、食料品や家庭用品は比較的堅調であったが、衣料品や身の回り品などは低調。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、3月の**新規登録台数**は2,699台、前年同月比14.3%減と6カ月連続のマイナス。うち普通車は0.5%減の1,417台、小型車が25.6%減の1,282台。また、軽乗用車は2,555台、1.6%減となり、2カ月連続の減少。軽を含む総販売台数では5,254台、8.5%減となり6カ月連続で前年を下回った。

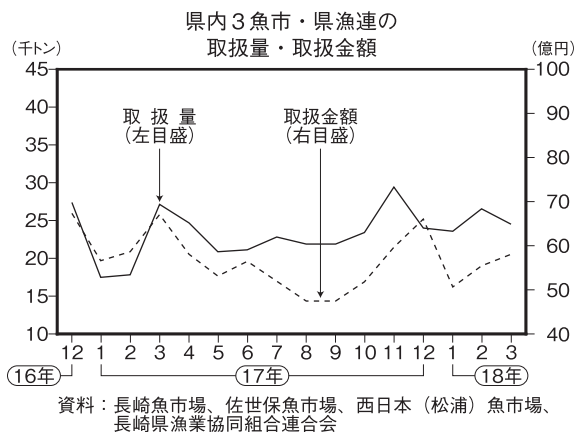
サービス消費面では、3月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が、前年同月比16.6%増となり、5カ月連続のプラス。うち、国内旅行が11.1%増で2カ月連続のプラス、海外旅行は33.0%増となり2カ月振りのプラス。



水産 取扱量、金額ともに減少

3月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量**は2.5万トン、前年同月比9.5%減少し、**取扱金額**も58億円、同13.7%減少した。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比60.0%減少し、単価が40.6%上昇したものの、金額は43.8%減少した。一方、サバも数量が同41.2%減少となり、単価が7.9%上昇するも、金額は36.6%減少した。

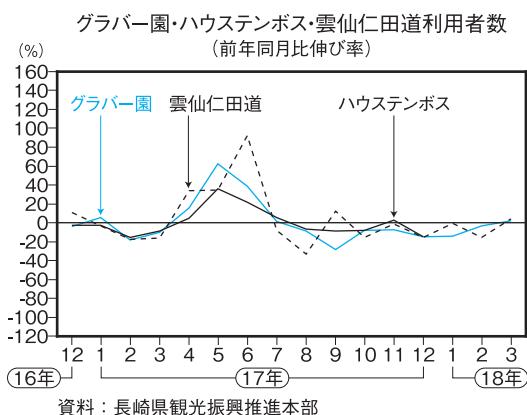


観光 主要施設の入場者数は減少、宿泊客数は増加

3月の県内観光をみると、主要観光施設の入場者数は前年を下回ったものの、主要宿泊施設の宿泊客数が3カ月連続して増加するなど、堅調に推移している。

主要観光施設等（13施設）の入場者は612千人、前年同月比4.0%減と8カ月連続して減少した。地区別にみると、県南地区はグラバー園（1.9%増）がやや増加したものの、長崎歴史文化博物館（6.8%減）と長崎原爆資料館（6.5%減）は減少した。一方、長崎ペンギン水族館（5.4%減）の入館者数が、2001年の開館以来累計400万人を突破した。島原半島では、島原城（2.1%増）と雲仙仁田道（4.0%増）がともに増加、雲仙岳災害記念館はリニューアル工事のため休館している。また、県北地区では平戸城（9.5%増）が増加するも、ハウステンボスと九十九島パールシーリゾート（3.5%減）は前年を下回った。離島地区では堂崎天主堂（3.5%増）が増加し、一支国博物館（0.8%増）も微増となるも、万松院（13.7%減）は減少した。

県内主要宿泊施設（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比7.4%増と3カ月連続して増加した。地区別にみると、県南地区が5.6%増加し、県北地区も6カ月連続プラスの9.0%増となった。一方、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は20千人、前年同月比19.9%減と9カ月連続して減少し、小浜地区も12千人、同11.5%減と7カ月連続の減少となった。



公共工事

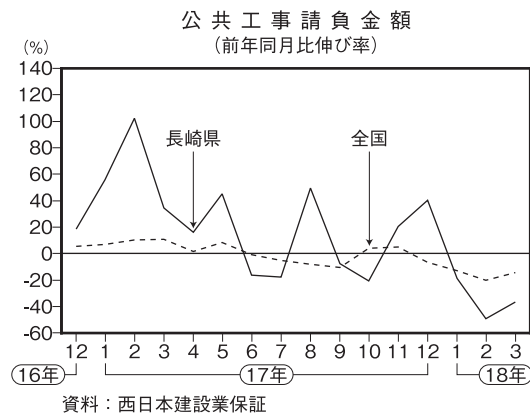
増勢一服

3月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は264件、前年同月比31.3%減となり4カ月連続の減少。一方、**請負金額**は148億円、前年同月比は36.4%減となり、3カ月連続で前年を下回ったが、17年度累計では2,188億円、前年度比0.8%減とほぼ前年並みであった。

3月の主要発注者別の**請負金額**では、「国」（31億円、22.9%増）は増加したものの、「県」（78億円、45.6%減）と「市・町」（35億円、40.8%減）は減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、県北地区（33億円、1.9%増）、壱岐地区（5億円、79.6%増）の2地区。一方、長崎地区（47億円、27.7%減）、諫早地区（29億円、64.1%減）、島原地区（14億円、16.2%減）など8地区は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、長崎県発注の一般県道奥ノ平時津線道路改良工事（13億円）、一般県道諫早外環状線道路改良工事（2件、12億円）、九州地方整備局発注の佐世保港（浦頭地区）岸壁築造工事（11億円）など。

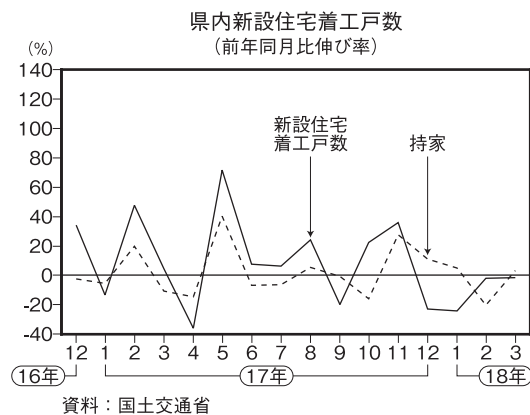


住宅建設

前年同月比微減

3月の**新設住宅着工戸数**は541戸、前年同月比1.6%減（以下同じ）と前年をやや下回った。利用区分別にみると、持家（224戸、3.2%増）は前年比増加となったものの、貸家（281戸、6.3%減）と分譲（24戸、22.6%減）では減少した。

主な市郡別（県建築課調べ）では、佐世保市（224戸、75.0%増）、西彼杵郡（46戸、53.3%増）など7市郡で前年を上回り、下回ったのは長崎市（97戸、41.6%減）、大村市（62戸、31.9%減）、諫早市（45戸、34.8%減）など8市郡。



雇用 緩やかな改善傾向続く

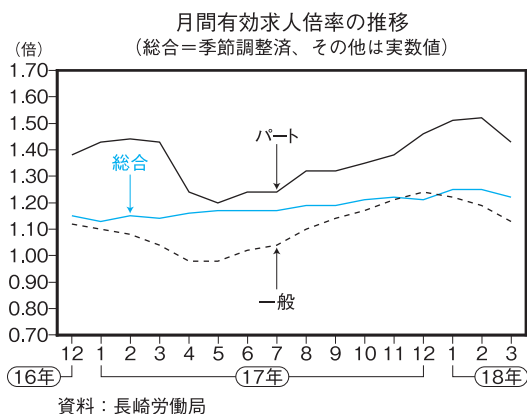
3月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.03ポイント下回る1.22倍となった。また、全国の有効求人倍率は前月を0.01ポイント上回る1.59倍であった。

新規求人数は10.7千人、前年同月比0.5%減となり、2カ月連続の減少となった。形態別では、一般求人が1.3%減と2カ月連続の減少、パート求人は0.5%増と3カ月振りの増加。主な業種別にみると、サービス業（15.0%増）のほか、建設業（9.6%増）、卸売・小売業（7.3%増）、医療・福祉（6.4%増）などが前年を上回ったが、飲食店・宿泊業（21.0%減）をはじめ、製造業（16.9%減）、運輸業（10.6%減）などでは2桁減となった。一方、**新規求職者数**は6.9千人、前年同月比4.4%減となり6カ月連続の減少。形態別では、一般求職者が7.2%減、パート求職者は1.0%増であった。

また、**有効求人数**は30.0千人、前年同月比0.4%増となり39カ月連続のプラス、一方、**有効求職者数**は24.3千人、4.7%減と3カ月連続で前年を下回った。

就職件数については、3.2千件、前年同月比3.3%減と5カ月連続の減少。また、**雇用保険受給者実人員**は4.3千人、前年同月比4.1%減となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



企業倒産 低水準ながら3カ月連続増

4月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比5件増の7件となり、3カ月連続して前年を上回ったが、14年11月以降、42カ月連続して一桁台となるなど、低水準が続く。

一方、**負債総額**は1.9億円。10億円超の大型倒産があった前年同月に比べ9.3億円減となり、集計開始以来4番目の低水準となった。

倒産件数を業種別にみると、小売業が2件のほか、農林水産業と製造業、建設業と卸売業、サービス業がそれぞれ1件ずつ。また、その倒産原因は全て「販売不振」。

